



様式第4号（第7条関係）

令和8年 7月10日

東かがわ市議会議長
工 藤 正 和 様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)
氏名 小 松 千 樹

行政視察等報告書

1	日 時	令和8年7月3日	
2	参加者	渡邊 堅次、 小松 千樹	
3	目的等	内 容	場 所
		第13回「震災対策技術展」大阪 〈受講セミナー〉 1.～大地震などの災害時・通信障害を克服！～ 2.自治体、学校、企業と取り組む様々な防災教育・防災啓発事業について	大阪府大阪市 (マイドームおおさか)
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照	
6	費 用	9, 8 6 0 円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

「震災対策技術展」におけるセミナー1
～大地震などの災害時・通信障害を克服!!～

BCP 遂行に必要な通信対策はお済ですか？

自社の環境/条件/コストにマッチした最適な通信手段を考える。

テレネット(株)防災士 久保誠司氏

テレネット株式会社は、情報を活用した地震・津波対策を専門とした防災会社であり、北海道から沖縄まで 3,000 社を超える企業・団体に災害対策サービスを提供している。現在提供中の主な対策サービスは以下のとおり。

1.「緊急地震速報受信機 ハザードプロ」

建物の館内放送や自動ドア・エレベータ等に配線し、揺れる前に自動放送・ドアの自動開放・エレベータの自動着床（閉込事故防止）など、死傷率軽減および避難路確保のための対策を提供

2.「緊急災害用無線機 ハザードトーク」

事業拠点に設置し、企業・団体への災害時の緊急災害情報の配信業務と、外部との連絡手段ごとに異なる音声ガイダンスで警告。

① 独自性、先進性などの観点で評価すべき点

災害時に対応した強固な全国通信網のため、災害時、携帯・固定電話などが発信規制や輻輳で通話出来ない状況でも、ハザードトークは規制を受けにくい環境で通信を行う。

単に災害に強いと言われるデータ網でさえ、災害時は大変混雑してひっ迫する。そのような中、ハザードトークは単にデータ網を使うのではなく、専用に借り受けた領域を利用することで、災害時の情報共有を実現するため、全国どこでも繋がりがやすく、屋内でも使用できる災害用ホットラインが構築できる。

② 東かがわ市で参考にする上での課題（現在、今後）と思われる点

- 完全に圏外になるエリアや、地下・屋内などでは通信が不安定になる場合がある。
- 導入・維持コストが一般的なスマートフォンよりも高い。
- 費用対効果

③ 感想・今後の取組

- 上記の課題が克服された時点で災害時の通信対策について再考したい。

「震災対策技術展」におけるセミナー2

自治体、学校、企業と取り組む様々な防災教育・防災啓発事業

特定非営利活動法人プラス・アーツ 理事長 永田宏和氏

プラス・アーツは、アートやデザインのクリエイティビティを活かし、楽しく防災を学ぶプログラムや防災訓練を開発・普及する特定非営利活動法人。阪神・淡路大震災の教訓を未来に伝えるため2006年に設立され、神戸市と東京都に拠点を置いている。

主な特徴と活動内容は以下のとおり。

●「イザ！カエルキャラバン！」の展開

防災訓練とおもちゃの交換会（かえっこ）を組み合わせた大人気プログラム。

子どもたちが遊びを通じて災害時の知恵や技を学ぶことができ、国内外で500回以上開催されている。

●多彩な防災教材の企画・開発

堅苦しくなりがちな防災教育にデザイン性やゲーム性を取り入れ、「水消火器であてゲーム」や「毛布で担架タイムトライアル」など、誰もが参加しやすい独自の防災ゲームを多数生み出している。

●地域づくりと企業連携

自治体や地域住民と連携した防災イベントの企画運営のほか、企業の社内防災啓発や防災グッズの企画・監修など、多角的に防災意識の向上に取り組んでいる。

プラス・アーツでは、理念として、新しいプロジェクトを始める際に、まず「風」・「水」・「土」、それぞれの役割を担うメンバーが揃っているかを確認している。種（活動）をつくり、運ぶ「風」、その種を育てる「水」、そしてそれを根付かせる「土」の3つの存在がうまく連携できていると、プロジェクトもうまく機能する。

逆にいい種（活動）があっても、その土地に暮らす人や、参加者のことをよく知る人の協力がなければ、プロジェクトを成功させ、続けていくことは困難である。誰かがプロジェクトを始める際、まずはプロジェクトに必要な3つの役割のメンバーを確認し、把握し、チームを組成するところから始めていくことが重要としている。

① 独自性、先進性などの観点で評価すべき点

たとえどんなに良い活動だとしても、自分たちと全く関わりのない外から来た活動のままだと、なかなかその土地に受け入れられず定着しないという考えから、この法人は防災プログラムに、「風・水・土」や、「不完全プランニング」、「+クリエイティブ」という考え方を採り入れて、地域に防災が根付くように活動している。

② 東かがわ市で参考にすべき点

プロジェクトの主催者ではない地域の人たちにも活動に参加してもらうことが、継続する防災プロジェクトをつくるための秘訣である。開発した種（活動）を持っていき、打ち上げ花火的に開催するだけでは、その後なかなか根付かないが、準備段階のつくり込みから地域の人たちを巻き込むことができれば、その後、彼らが中心メンバーの一員となって活動を継続してくれるかもしれない。

③ 感想・今後の取組等

東かがわ市の地域の人たちを巻き込む秘訣は、完璧に出来あがった種（活動）を持ち込むのではなく、不完全で関わり代を残した余地のある種（活動）を持ち込むことである。余地があり、関わり代があれば、地域の人たちはその活動を完成させるプロセスに参加することができ、協力してつくりあげることができる。このプロセスがとても重要で、一緒につくることで関わった地域の人たちは、主体的な「担い手」として活動に継続して関わっていくようになるという観点が大変勉強になった。